

桜川の三セクふるさと返礼品 市に代金を二重請求

22年度3月分

桜川市のふるさと返礼品を出品している市の第三セクター企業「クラセル桜川」(同市御田)が、返礼品代金を市側に二重請求し、市が297万円余りを支払っていた。市が5月30日に発表した。クラセルは同20日に二重請求分の全額を市に返還したという。

市は発覚したきっかけを「市民からの情報公開請求」としている。出向した職員は前任者からの引き継ぎを受けておらず、市の聞き取りに「支払い漏れがある」と思っ、慌ててい

た」などと説明したとい

一方、この問題で情報公開請求をした川股隆市議は取材に、ことし4月に公開された関連資料で誤請求が判明したと明かした。川股市議は「4月に出向したばかりの職員が二重請求でき

るはずがない」と、経緯を疑問視する。

市によると、クラセルは21年2月設立で、地元の野菜や加工品、工芸品などを販売する「加波山市場」を運営。社長は現在、大塚秀喜市長が務めている。

(青木孝行)

桜川市の三セク 返礼品代誤請求

297万円 全額返還

桜川市は5月30日、市などが出資する第三セクターで物販店の「クラセル桜川」に対し、ふるさと納税返礼品代として約297万円を誤って支払っていたと発表した。同月20日、全額が返還され

たという。

市総合戦略部によると、市から物販店に出向した職員が、2022年度分の返礼品代について請求漏れがあると誤認。23年3月分として297万6千円を余分に中間事業者に請求し、市は同額を支払っていた。物販店は大塚秀喜市長が社長を務めている。

市議の一人が昨年9月

に情報公開請求し、今年4月になって市は、ふるさと納税返礼品に関する「支出命令書」を開示した。取材に対し、久見本憲一・総合戦略部長は「市議の情報公開請求で発覚した点が問題。市の監督する部署として責任を感じている」と話した。

(河合博司)

24. 5. 30 イバ

ふるさと納税返礼品
三セクが代金誤請求

桜川

桜川市は30日、市の第三セクター「クラセル桜川」(同市鞆田)がふるさと納税返礼品代を誤請求し、中間事業者を通して市が同社に約297万円を支払っていたと発表した。同社は誤請求額を返還し、中間事業者から市に同額が支払われた。

市によると、誤請求があ

つたのは、2022年度3月分の返礼品代。翌月に市から同社に出向した市職員が、請求漏れがあると勘違いしたという。職員は、返礼品代を集計する中間事業者の「一般社団法人「地域資源活用推進協会」を通じ、市に米や蜂蜜代など297万6千円を請求した。

市は今年4月に情報開示請求を受け、配送データなどを調査。本来の返礼品代は1万4400円だったことが発覚した。職員は市の

聞き取りに対し、「異動したばかりで慌てていた」と話しているという。市の担当者は「職員が誤請求額をどのように算出したのかは不明」と説明する。情報開示請求した川股隆市議は「他の関係者が気付かなかったのが疑問」と訴えた。

同社は21年に設立し、直売施設「加波山市場」を運営。大塚秀喜市長が社長を務め、22年度に初めて約36万円の黒字を出した。

ふるさと納税返礼品
中間事業者に誤払い

桜川市

桜川市は30日、ふるさと納税返礼品の中間事業者「地域資源活用推進協会(アルパ)」(佐賀県みやま市)に対し、297万6000円を誤って支払っていたと発表した。アルパは同市に対し20日、全額を返還した。返礼品業者の一つで、同市の第三セクター「クラセル桜川」(桜川市)に出向していた市職員が、2023年3月分の返礼品代の請求漏れがあると誤認。返礼品業者からの自治体に対する請求を取りまとめるアルパに対し297万6000円を請求した。アルパから請求を受けた市は、ミスに気がせず支払っていた。